行政裁判法

大隈

114
A2692
1

東京帝國大學 行政裁判所 圖書

第一章　行政裁判所組織

第一條　行政裁判院所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條　行政裁判院所ニ院長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　院長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

院長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ判事ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣総理大臣ノ上奏薦ニ依リ任命セラルヽモノト

ス

書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條 院長官及評定官ハ在職中政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員ト府縣郡市町村議會ノ議員若クハ參事會員タルコトヲ得ス

第五條。院長及評定官ハ內閣ニ
理由ノ具ヘサルトキハ非サレ
ハ其職ヲ罷免シ又ハ轉職セシ
ムル事ヲ得ス

第六條。場合ヲ除ク外長官及
評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ
處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反

シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラ
ルヽコトナシ
前項懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ
以テ之ヲ定ム

第六條　長官及評定官身體若クハ
精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルヲ
ト能ハサルトキハ內閣總理大臣
ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依
リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第廿七條　院長官ハ行政裁判院所
ノ事務ヲ總理シ又自己裁判長ト
為リ若シハ評定官ヲ裁判長ヲ命
ス
院長官故障アルトキハ評定官中
官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等
同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ

其発ニ当リ番之ヲ代理ス

第八條　長官ハ自ラ裁判長ト十ル
長官故障アルトキハ前条第二項
ノ例ニ依ル
部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組
織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所
ニ依ル

第廿九條　行政裁判院所ノ裁判ハ裁判長~~ヲ~~併セ及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル~~ト~~シ若シ缺席ノ為偶數ト為リタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序

ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半數ニ依ル

第八十條　陸軍長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一　裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二　裁判スヘキ事件一私人ノ資格

ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又
ハ理事者代理者若クハ職務外
ノ地位ニ於テ取扱ヒタモノニ
関スルトキ

三　裁判スヘキ事件行政官タルノ
資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ
裁決ニ參與シタルモノニ関ス
ルトキ

~~許議及議決ニ加ハルコトヲ得サ~~
~~事由ノ有無ニ就テハ行政裁判~~
~~院ハ本人ヲ回避セシムヘキ議決~~
~~ス~~

第九條　行政裁判院ニ書記ヲ置ク

其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ

定ム

書記ハ行政裁判院長之ヲ判任ス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書面又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ囲避セシメ之ヲ議決ス

第十二條　忌避若シハ回避ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條　行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十十四條　行政訴訟ノ代人又ハ
辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁
判院所ノ認許シタル辯護士ニ限
ル但行政裁判院ハ何時ニテモ其
認許ヲ取消スコトヲ得

第二章　行政裁判院所權限

第十五條　行政裁判院所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判院所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十三條　行政廳ノ一個人ノ間
ニ起リタル通常民事ニ關スル訴
訟ハ行政裁判院ノ管轄ニ屬セス

第十四六條

行政裁判院所ハ行政官吏ニ對シ損害要償ノ訴訟ヲ受理セス

行政官吏ニ對シ損害要償ノ訴訟ヲ通常裁判所ニ提起セシトキハ其者ハ先ツ行政裁判院ニ出訴シテ其裁決ヲ越權ナリトスル法律勅

~~揭ケタル責任ニ属スル職務~~

~~上ノ義務ヲ怠リタルヤ否ヤ判決~~

~~ヲ要スルトキ~~

第十~~二~~七條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規定程アルモノヲ除ク外訴願法ニ依リ地方上級行政廳ノ裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提訴スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ

對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提訴スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ為シタルトキハ行政訴訟ヲ提訴スルコトヲ得ス

第十六八條　~~行政廳~~ 行政裁判~~院~~所ノ判決ハ~~當事者ニ從ヒ直ニ相手方ニ~~關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條　行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルヿヲ得ス

第十八條　行政訴訟又ハ民事訴訟ヲ許シタル場合ニ除ク外行政官廳ニ對シテハ單ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　行政裁判院所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

又通常行政裁判所ト行政廳又ハ行政通常裁判院所又ハ特別裁判所トノ間ニ訴ル權限ノ爭議ハ權限裁判所樞密院ニ於テ之ヲ裁判定

枢密院ニ於テ権限ノ争議ヲ裁定スルノ手続ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條　行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章　行政訴訟手續

第二十十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提訴スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ為スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ

規定程ナルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提訴ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ水災害事変ノ為メ遷延シタル期限ニ関シテハ民事訴訟ノ規定程ヲ適用ス

第二十三條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規定程トルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スル

コトヲ得

第二十三四條　行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スベシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者團體及ビ會社ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四五條　行政訴状ハ左ノ事
項ヲ記載シ原告人署名捺印スヘ
シ
一　原告人ノ住所身分職業年齢
二　被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告
人
三　要求ノ事件及其理由

四立證

五年月日

行政訴状ニハ其原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十五六條　行政訴状ニ被告ト送付スル為メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十六七條　行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律上又ハ勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ法律上適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル為メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條　行政裁判院所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告人ニ送付スル為メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十八九條　行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十九條　行政裁判所ハ訴状
及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原
告被告ニ交互ニ送付スル代リニ所
内ニ於テ之ヲ閲覧セシムルコ
トヲ得

第三十一條　行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦

其効力ヲ有ス

第三十二條 ~~原告被告及第三者~~

~~行政裁判所ニ於テ認許シタル~~

~~訴訟ニ付代人ヲ為サシムル~~

~~ヿ~~

行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ

依リ主務大臣ヨリ命シタル委員

ヲシテ訴訟代理ヲ為サシムルヿ

トヲ得

代~~人其他管理人~~理者ハ委

任状ヲ以テ其部理代人タルコト

ヲ證明スヘシ

第三十二三條　行政裁判~~院~~所ハ豫

メ指定シタル期日ニ於テ原告被

告及第三者ヲ~~呼出~~召喚シテ審廷

ヲ開キ口頭審問ヲ為スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審

問ヲ為スコトヲ望マサル旨ヲ申

立タル場合ニ於テハ行政裁判~~院~~所

所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ為ス
コトヲ得

第三十条 審廷ニ於テハ原告
被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ
審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得
タル者ヨリ順次発言スヘシ
原告被告及第三者ハ事實上及法
律上ノ點ニ就キ文書ニ畫サシル
所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若

ハ新ニ證憑ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十四五條　主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル為メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判院所ハ判決ヲ為ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十五條　審理行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條　公開ヲ停ムルノ決議ヲ為シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十六八條　行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ並ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ呼出召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ為サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應

シ澄明及鑑定ヲ為スヘキ義務ニ
関シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適
用ス其義務ヲ盡サヽル場合ニ於
テ処分スヘキ科罰ハ行政裁判所
自ラ之ヲ判決ス
行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ
挙證ノ手續ヲ為シ又ハ評定官ニ
委任シ若クハ通常裁判所又ハ行
政廳ニ嘱託シテ之カ調査ヲ為サ
シムルコトヲ得

第三十九條　行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第三四十八條　審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第三四十九一條　呼出召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判院所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判院所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ為スコトヲ得

第四十二條　裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十十三條　行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規定ナキモノハ行政裁判院所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章　附則

第四十~~十~~四條　此法律ハ　年　月日ヨリ施行ス

第四十三條　第十九條第二項ノ權
限事議ハ權限裁判所ヲ設クル迄
間權密院ニ於テ之ヲ裁定セシ

第四十~~四~~五條　~~行政裁判ニ關スル~~
~~從前ノ法律令規則~~ニシテ此法律
ト抵觸スルモノハ此法律施行ノ
日ヨリ廢止ス

第四十五六條　此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍從前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

第四十六七條　第二十一條第一項ニ定メタル出訴期限ハ此法律施行ノ前各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ヲ受ケタル者並ニ請願規則ニ依リ主務大臣ノ指令又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ

指令ヲ受ケタル者ニ對シテハ此
法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
請願規則ニ依リ内閣ノ裁令ヲ經
タルモノハ更ニ出訴スルコトヲ
得ス

第二十九号（少曜日）年号例刻弓
行政裁判法及行政訴訟法
一讀会開会
右議決ニ付通知ス
明治五年
枢密院書記官

来二十九日行政裁判法及訴願法
第一讀会開会ノ成ルヲ待テ
此節ニ乃チ在京ニ顧問官ヲ以テ
少シク成ル様合ヒ委席ノ成ル様
此義議長ニ依リ為念申ス
四月五日

相馬議長記事長
伊東巳代治